

2025 ULTRA PROJECT

BUYBYPRODUCTS PROJECT | 副産物産店（矢津吉隆・山田毅）・松本尚子・中村紀章・水迫涼汰

■プロジェクト内容（予定）

アーティスト、建築家、デザイナーがディレクターとなり、ウルトラファクトリー内にBUYBYPRODUCTS Circulation Studio という拠点をつくって活動するプロジェクトです。大学内で不要になったモノや廃材などを“副産物”と呼び、それらを回収し必要な人の手に届ける資材循環の仕組みを作っています。また、副産物を素材にしてアップサイクルプロダクトの開発や新しい素材の実験などを日々行います。今年度は、学内資材循環のための「みどりの箱」の運用、資材提供イベント「みどり市」の開催や、ウェブサイトやSNSを通じてプロジェクトの活動を発信していきます。また、ホテルアンテルーム京都内で使用するプロダクトの開発や京都音博の「資源がくるりプロジェクト」、「森、道、市場」での副産物の活用を行う予定です。

実施期間 2025年5月～2026年2月末

活動場所 BUYBYPRODUCTS Circulation Studio

活動日 毎週、水木金の17:30～20:00を基本に活動。

（すべて参加の必要はありません）

イベントがある場合は土日に学外での活動もあります。

■スケジュール

4月14日（月） エントリー〆切（10時まで）

4月18日（金） 17:30～ 面接（申込者全員）@Zoom

4月21日（月） 面接選考結果をメールにて連絡

5月1日（木） 18:00～ キックオフミーティング @ウルトラファクトリー

※上記は現時点での予定です。変更の可能性もありますが、各日スケジュールは空けておいてください。

■単位認定

あり

※通年の活動参加で、プロジェクト演習科目/ウルトラ・プロジェクト1（準正課）2単位を申請予定

※大学院生の単位認定は、スチューデント・オフィス（大学院担当）よりお知らせします。

■募集人数

15名程度

■応募方法

エントリーフォームより必要事項（自己PR）を入力し、応募してください。ディレクターとの面接を経て、メンバーを決定します。

※エントリーフォームへは、特設サイトプロジェクト一覧の末尾にある【ウルトラプロジェクトのエントリーはこちら】から

■面接について

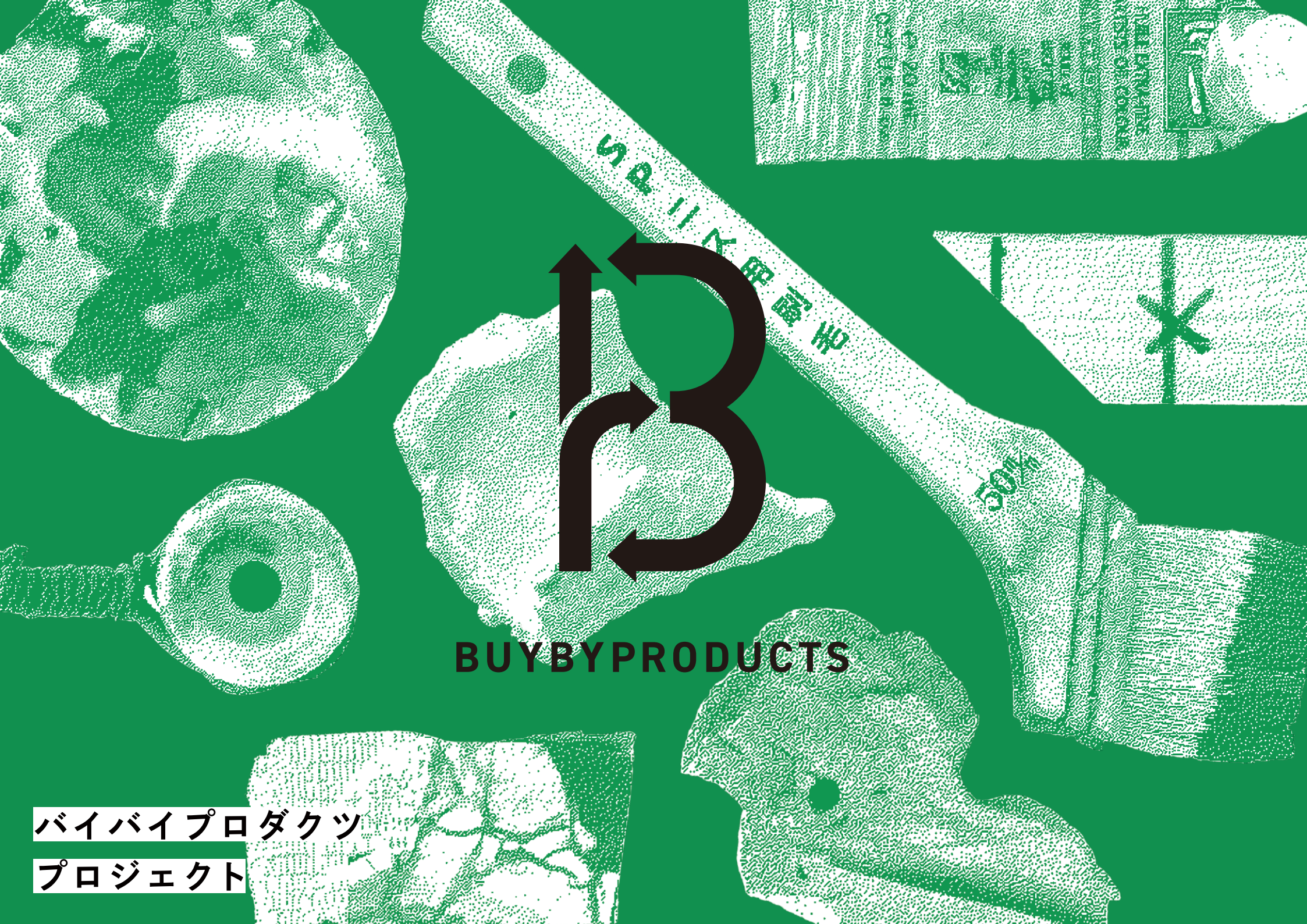
面接詳細はエントリー〆切後に、メールにて連絡します。

面接はオンラインで実施します。面接前までに過去の活動をまとめたものを画面共有できるように準備してください。なければ構いません。

■お問い合わせ

不明な点や質問は、ウルトラファクトリー オフィス（徳山・浦田）まで。

TEL 075-791-8482 Email ultrafactory@office.kyoto-art.ac.jp



BUYBYPRODUCTS

バイバイプロダクツ
プロジェクト



廃材

×

アイデア

新しい視点と循環を生み出す ものづくりプロジェクト

壊れているもの、古くなった道具、使わなくなったもの、使おうと思って結局使わなかった素材、プロトタイプ、制作過程でどうしても出てしまう端材、廃棄処分される作品……etc. 我々の身の回りには様々な“廃材”があります。

廃棄されてしまうものたちを“副産物”という「新たな素材」として捉えてみる。

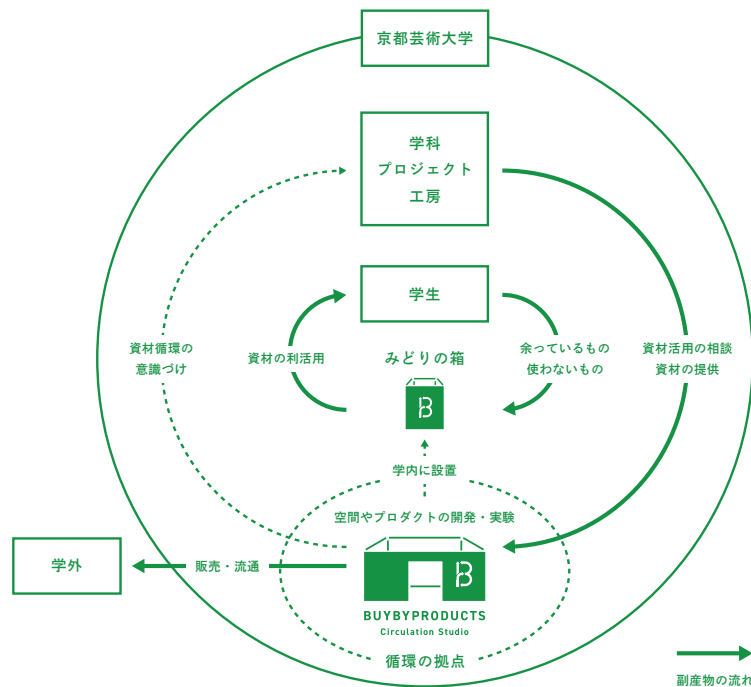
この色も素材も大きさも異なる面白い素材たちをつかって、アーティスト、建築家、デザイナーと学生たちが様々な実験を繰り返しながらもう一つの価値の可能性を希求します。

ウルトラファクトリー内に “循環の拠点”をつくる

BUYBYPRODUCTSプロジェクトは、2022年に新設されたウルトラファクトリーのプロジェクトです。BUYBYは廃材を「副産物」と捉え、新たな価値を付加した商品開発や建築材などの異なる用途に生まれ変わらせることを活動の目的にしています。芸術大学では各学科からさまざまな副産物が大量に排出されます。現状はそのほとんどを廃棄していますが、誰かにとって必要なもの

であったり、別のものに生まれ変わらせれば魅力的なモノになったりします。

私たちは、ウルトラファクトリー 2Fの一部を改修し、大学内のあらゆる廃材やそれを活用するアイデアが集まる資材循環の拠点、「BUYBYPRODUCTS Circulation Studio」をつくっています。



↑ BUYBYPRODUCTSの目指す循環システム



↑ 本プロジェクトの拠点「BUYBYPRODUCTS Circulation Studio」

資材循環システムづくりから、 学外のクライアントワークまで

昨年度は学内各所に「みどりの箱」という資源循環BOXを設置し、循環システムが本格的に稼働し始めました。また、そこで集まった副産物を一堂に会し、それらを自由に持って帰れるイベント「みどり市」を実施しました。

さらに広報ツールとして、ステッカーになるリーフレットやWEBサイ

トのベースなども作成し、BUYBYの活動を広く知ってもらう活動を推し進めています。

また本プロジェクトは、クライアントワークも積極的に受注しています。副産物を活用したプロダクトの開発や内装など、いくつものBUYBYのものづくりが実際に社会実装されています。



↑みどり市



↑ステッカーになるリーフレット



↑亀岡の某施設に納品する家具

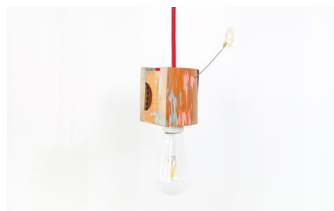
ディレクター

BUYBYはアーティスト、建築家、デザイナーといったさまざまなジャンルのプロフェッショナルがディレクターとして参画することで、多角的な視点で資材循環について取り組んでいます。

副産物産店

(矢津吉隆 + 山田毅)

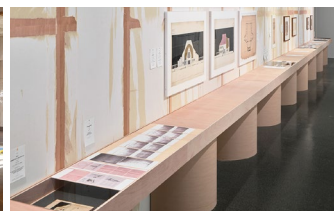
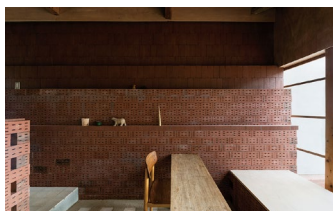
2017年に山田毅（只本屋）と矢津吉隆（kumagusuku）の二人の“店”を表現媒体とする美術家によって結成されたアートユニットでありアートプロジェクト。アーティストのアトリエから生まれる廃材を“副産物”と呼び、それらを活用・流通させるなかで、物の価値を問い直す活動を展開。展覧会やイベント出店、ワークショップのほかに、大学や行政、企業と連携した資材循環の仕組みづくりを行なっている。



松本尚子

(木村松本建築設計事務所)

2003年木村吉成と松本尚子により設立した建築設計を中心とした事務所。まちの環境や歴史をリサーチし、人が長く使い続けるためのふさわしいかたちやシステム=骨格を見つけ出しながら、各地で小さなプロダクトから大きな建物までを手がける。他事務所やデザイナー、アーティストなどとプロジェクトごとのチームで取り組むことも多い。



中村紀章

(中村 × 建築設計事務所)

中村重陽と中村紀章により設立した建築設計事務所。地域のコンテキストをサンプリングし、設計に取り入れることを心掛けている。場所に関わるヒトやモノを増やし、そのネットワークを繋ぎ直すような設計を目指して活動している。他事務所や他分野、学生など多種多様な人々との協働プロジェクトを行う。



水迫涼汰

2017年京都造形芸術大学（現・京都芸術大学）を卒業し、4年半NOSIGNER株式会社に所属した後独立。京都を中心に、ブランディング・グラフィックデザイン・イラストレーションの分野で活動中。北山林業を背景とした設計プロジェクト「SIBO」、ラッピングデザインプロジェクト「浮々」、地域物産の物販プロジェクト「鯨波」など数多くの自主プロジェクトも主宰する。

